

【施策評価調査】

施策名	3-3-2	急傾斜地崩壊及び河川氾濫防止		101	施策目的 総合的防災体制の中において、急傾斜地危険箇所や洪水災害予想図(ハザードマップ)を作成し、対策や情報、危険性を住民に正確に周知被害を最小限に食い止めます。
		※高根沢町地域経営計画2006 該当ページ			
担当部課	総務企画部 地域安全課	担当	危機管理担当		施策内容 県と協力して町内11箇所の急傾斜地崩壊危険箇所に関する調査を実施し、危険度に応じた対策を行います。また、水防等のハザードマップ*を作成して、災害に対する注意を喚起します。 (※「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)
		リーダー	戸井田 和明		
環境変化	特になし				

■指標

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標①:急傾斜地崩壊危険箇所調査回数	平成16年度 調査回数実績 3回	計画	3回	3回	4回	4回	4回
		実績	→ 3回	↓ 1回	↓ 1回	↓ 2回	
指標②:		計画					
		実績					
指標③:		計画					
		実績					
◆◇ 指標に関する特記事項 ◇◆							

	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	当初	0	0	0	0	
	決算	0	0	0	0	

■事務事業事後評価 21年度の検証

施策傘下事務事業	事業費	活動量(アウトプット)	施策への貢献度	施策達成にどう貢献しましたか？(アウトカム)			
①急傾斜地崩壊及び河川氾濫防止	当初	急傾斜地崩壊危険箇所 11箇所 重要水防危険箇所 3箇所(大沼川1箇所,冷子川2箇所)	A	平成20年度に作成したハザードマップを利用し地域住民に対して説明会を開き説明をし、危険箇所の理解度を高めてもらい有事のときの対応ができる体制を住民自身にも認識してもらいました。			
	決算	14箇所 / 14箇所		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	廃止
②	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
③	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
④	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
⑤	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	

■施策事後評価 21年度の検証

	施策達成状況に関する評価	課題と今後の方向性
自己評価	町内の急傾斜地崩壊危険箇所及び河川重要箇所において、町都市整備課・矢板土木事務所等での合同の現地確認調査を2回実施しました。また、急傾斜地崩壊危険地域を訪問し、急傾斜地地域であること認識をもらうことと、警報等が発令された時の伝達方法や災害時の対応(避難等)などの周知を行いました。	今後も地震・洪水ハザードマップの理解度高め、災害時に迅速な対応ができるように地域住民に対して啓発していき、また、関係機関と連携を密にし引き続き危険箇所に点検を行っていきます。より効果的で確実な災害情報伝達方法を検討していきます。
総合評価	総合評価 今まで取組んできた事業を精査すると、事前に災害を防止する予防保全を計画的に整備していくものではなく、防災意識の啓発や未然に防ぐための調査、情報伝達方法に力点を置いた施策と判断する。 後期計画においては、引き続き関係機関と連携を図りながら、防災意識の高揚を図る事業として、同じ政策の中で施策を統合するなど、事務事業は経常的なシフトへの変更を検討すること。	